

戦後日本の成長と国際関係

～“持続可能な社会”とは何か？

現代史の学習で考えよう～

鳥取市立鹿野中学校 六井正信

はじめに

新学習指導要領では、現代史は第3学年で学習することとなっている。1・2年生での地理的分野・歴史的分野の学習をふまえ、さらに公民的分野の学習も視野に入れ、授業を構成していきたい。

現代史は、政治・経済・国際関係や、文化など様々な面に着目して学習を進めていく必要がある。現代の日本・世界各国が抱える様々な社会問題や課題を歴史学習に組み込んでいくことで、多面的・多角的に時代の特色を捉えることができる。網羅的な学習にならないよう、典型的な事例を学習課題や発問として焦点化し、授業に組み込んでいきたい。

新学習指導要領では、社会科の学習を進めていくうえで大切なキーワードが示されている。それは、『持続可能な社会』、『よりよい社会をつくる』『社会活動への参画』などである。

環境問題、グローバル化により起こる問題、南北問題、平和問題、人権問題など、世界全体で取り組まなければ解決しない現代の課題は多い。国内的にも少子高齢化、年金問題など様々な課題がある。このような現代の課題の中で、21世紀を生きていく生徒たちはどのように歴史学習を進めていけばよいのだろうか。

大切なのは、生徒が「どのような社会をつ

くっていくのか」を考えることのできる教材を構成していくことである。そして、現代史の扱う時代はどのような時代であったのか大観し、この時代に行われた政策により、どのように社会は変化したのか思考し、判断していくことが大切である。

そのうえで、現代の諸課題に対してどのような政策や対策が必要なのか考えていくことができるような教材を開発していくことが必要であると考えられる。

教材の構成にあたっては、生徒の身近にある教材（ネタ）を授業に持ち込み、身近な歴史の切り口から、現代社会の課題の背後にある様々なシステムや仕組みに迫っていきたい。

2 教材の構想

教材の構成にあたっては、経済や政治、環境問題、グローバル化などの視点を大切にしていきたい。それらの視点は、単独の視点ではなく相互に関連している。現代史を学習し、課題を解決していくためには、複眼的な視点が必要であることに気づかせたい。それぞれの授業テーマについて学習しながら、現代社会のいくつかの課題について、総合的に考えていくことができるよう教材を構成していきたい。

《教材構成の例》

① 戦後日本の復興と経済の成長

- ・ 連合軍の占領と諸改革
- ・ 新憲法の制定
- ② 冷戦と国際関係
 - ・ 国際連合と冷戦
 - ・ アジアの動向、朝鮮戦争
 - ・ 平和条約の調印と国際連合への加盟
 - ・ 55年体制と安保闘争
 - ・ 非同盟主義の形成
- ③ 高度経済成長の光と影
 - ・ 高度経済成長と生活の変化
 - ・ 過疎問題と過密問題
 - ・ 深刻な公害問題
- ④ グローバル化と社会の変化
 - ・ 国際関係の変化と日本
 - ・ 世界の一体化、グローバル化
 - ・ 南北問題
- ⑤ 持続可能な社会のために
 - ・ 地球に優しい都市・交通
 - ・ 持続可能な経済・社会とは

3 授業展開例

《②冷戦と国際関係 ④グローバル化と社会の変化》

授業構成にあたっては、まず現代社会の課題について考えさせたい。たとえば、資料1を提示することで、「なぜこのような激しい



資料1 同時多発テロ事件

テロ行為が起きたのだろうか？」という疑問が生徒に起きる。そこで、資料2を提示し、「この飛行機と船は、どこの国のものだろうか？」「なぜこのような対立が起きたのだろうか？」と問い、冷戦の起こりや、朝鮮戦争、ベトナム戦争などにふれ、冷戦構造と国際関係について考えさせたい。



資料2 キューバ危機(1962年)

次に資料3、4を提示すると、「なぜベルリンの壁を壊しているのだろうか？」「1961年に



資料3 ベルリンの壁をこわす人々

建設されたベルリンの壁はなぜ建設されたのだろうか」など生徒は疑問に思う。そこで、戦後の冷戦の終結や新たな国際紛争について説明し、考えさせたい。



資料4 ブランデンブルク門とベルリンの壁

《③高度経済成長の光と影 ⑤持続可能な社会のために》

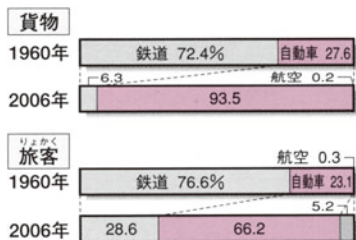


資料5 空から見たツバルと海岸侵食

資料5のように、地球温暖化は現代社会の大きな課題である。さまざまな角度からこの問題を教材化している授業例は多いが、生徒の身近な経済活動に着目したり、現代史、とくに高度経済成長期以降の日本のトラック輸送増加と関連づけたりして教材化している例は少ない。

◎教材の中心となる構想

ヨーロッパでは、トラック輸送に比べると環境にやさしい鉄道を残し、旅客輸送や貨物輸送に活用してきた。日本は高度経済成長期から、物流は自動車、とくにトラック輸送に依存し、鉄道の利用は減らしてきた。その変化の背後には、コンビニやスーパー、工場の部品輸送などでスピードや便利さを重視する日本経済のしくみがある。授業ではヨーロッパと日本の貨物輸送の変化を提示し、コンビニやスーパーの経済活動にもふれ、経済のサービス化・情報化とトラック輸送・地球温暖化について考えさせたい。



資料6 国内輸送の内訳の変化(日本)



資料7 トラック輸送

◎おもな発問

地球温暖化の原因はなんだろうか？

- ・工場などの産業から排出されるCO₂
- ・輸送に使われる自動車の排ガス
- ・家庭や商業施設が使うエネルギー

日本はかつて鉄道や船が輸送の中心だったのになぜトラックが輸送の中心になったのだろうか？

- ・高度成長期にトラックがたくさん使われるようになった
- ・トラックの方が便利だから
- ・公害の経験があったが、トラックの排ガスで大気が汚染されることに気づけなかった



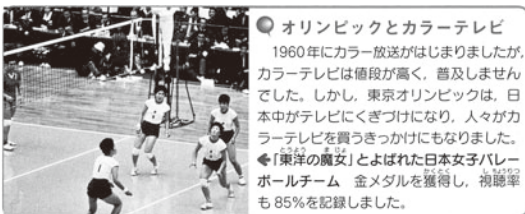
資料8 日本橋の上にかかる高速道路(1963年)



資料9 四日市コンビナート(高度経済成長期)

授業では、日本のトラック輸送中心の経済政策や税制、法律にもふれ、多面的・多角的に考えさせたい。また、生徒の身近なコンビニ・スーパー・宅配便・通信販売などの産業が、高速道路やトラック輸送に支えられていることを指摘し、便利で快適な私たちの生活と環境問題の関係について考えさせたい。

高度経済成長と都市化や、家庭の変化、東京オリンピックや新幹線など大きく変化した時代の様子も写真資料や映像を用いて授業でふれていきたい。



資料10 オリピックとカラーテレビ

オリンピックとカラーテレビ
1960年にカラー放送がはじまりましたが、カラーテレビは値段が高く、普及しませんでした。しかし、東京オリンピックは、日本中がテレビにくぎづけになり、人々がカラーテレビを買うきっかけになりました。
◀「東洋の魔女」とよばれた日本女子バレーボールチーム 金メダルを獲得し、視聴率も85%を記録しました。

“持続可能な社会”について、授業で取り上げる場合、便利で快適な生活の背後にある“大量生産・大量消費・大量廃棄”型の社会・経済のしくみにアプローチしていく必要がある。

中国などのアジアの製品がもしなかったら、私たちは暮らせるだろうか？

私たちの家庭には中国製などのアジア製の電気製品があふれている。国産品を探すのは難しいくらいである。

何でも安く購入できる“百円ショップ”、そのほとんどの商品が中国などのアジアから輸入されている。ジーンズや靴下などの様々な衣料品は海外生産により極端に安く販売されている。エビなどの冷凍食材から、コンビニの弁当の食材、ペットフードまで、海外から安く大量に輸入され日本で販売されている。

現代史を学ぶ中で、日本と中国などのアジアとの政治・経済の関係を、生徒の身近にあ

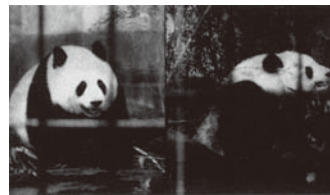
るモノを通して理解していく必要がある。

最後に生徒に考えさせたい発問。

持続可能な社会の実現にはどのようなことが必要だろうか？



資料11 コンビニエンスストア



資料12 日中の友好のしるしとして贈られたパンダ

4 おわりに

現代史の学習をふまえ、持続可能な社会について多面的に見て、多角的に考え、よりよい社会をつくっていかうとする生徒を育てる教材を開発してきた。今後も生徒の身近なモノを教材化し、背後にある歴史や経済のしくみについて考えることのできる教材を開発し、提示していきたい。

参考文献

六井正信 環境問題の教材開発：「トラック輸送はなぜ減らない？」～地球温暖化と日本の経済システム～全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第46集 2007年

資料の出典 資料1「明解世界史図説エスカリエ 初訂版」p.190
③ 資料2「中学校スタンダード歴史資料」p.190 資料3「中学生の歴史 初訂版」p.230 ② 資料4「中学校スタンダード歴史資料」p.190 資料5『中学校社会科のしおり 2010年9月号』表紙・表紙裏写真 資料6「中学生の地理 初訂版」p.165 ⑦ 資料8「中学校スタンダード歴史資料」p.197 資料9同 p.197 資料10同 p.197 資料11「中学生の公民 初訂版」p.40 資料12「中学校スタンダード歴史資料」p.200